



～ 世界の子供たちに学ぶ機会を！ 学ぶ喜びを！ ～

No.5

認定NPO法人LSスコラ育英基金 〒156-0055東京都世田谷区船橋1-25-15

☎ & Fax : 03-3428-8307

E-mail : scola_japan@yahoo.co.jp 、 HP : <http://scola.web.fc2.com/index.html/>

郵便振替番号 : 00100-0-767496 特定非営利活動法人LSスコラ育英基金

＜特定非営利活動法人「LSスコラ育英基金」設立10周年にあたって＞

平成31年度の事業年度に入りました。今年度は任期2年の半ばということもあり、役員構成は昨年そのまま変化ありません。昨年度の活動・事業・会計報告については、次頁以降をご覧くださいですが、関係会員・役員のご努力や生前贈与のお申し出等により、寄付金が昨年より51.4万円増加し総額349万円となっていることにも御注目ください。

ところで、「LSスコラ育英基金」が、それまでの「ラ・サール同窓会育英基金」を引き継ぎ、特定非営利活動法人(以下、NPO法人と略称)として法人資格を得、登録認証されたのは、2009年4月、今から10年前のことでした。これには、大金を扱う基金運用に関し、第三者(関係官庁)の目を通して、定款を定め、目的、組織、会計などについての運営を明確にし、その透明性を高めることに、主たる目的がありました。金融機関の口座開設も、個人名でなく法人名で開設できるようになりました。

さらに、その7年半後の2016年12月には、難関の認定NPO法人に認定認証されて、寄付者の寄付金に対する税額控除が講じられるようになりました。これには多くの寄付者・サポーターからの強い要望に応えるという目的がありました。また会計等の運営の一層の透明性を推進するという目的もありました。

現在、認定NPO法人として、監督官庁(東京都)への年度ごとの報告やチェックも厳しくはなっていますが、「聖ラ・サールの精神」と「教育」を指標に、「LSスコラ育英基金」のオープンな活動が継続できているのも、これまでの多くの支援者・会員・役員らの献身的なボランティア的活動による賜物と深く感謝しております。

NPO法人「LSスコラ育英基金」を設立して10周年という節目の年にあたり、改めて感謝の意を表し、今後とも変わらぬご理解とご支援をお願い致します。

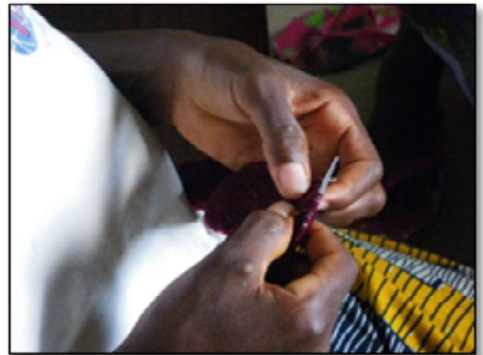
(理事長 中村勝洋)

<2018年度活動報告>

2018年度下期は、以下の二つのプロジェクトの支援を行いました。

1. 恵まれない青少年に対する、教育・職業訓練を受けられる施設、設備、備品などの整備

コンゴ共和国のツンバにあるツンバ・クンダ校で、若い女性が自立するための裁縫技術などを教えるために必要な機材や布地などを購入して行く、人材育成事業があります。このプロジェクトに対する支援を行いました。 (2019年2月 10,000ドル/1,124,700円)



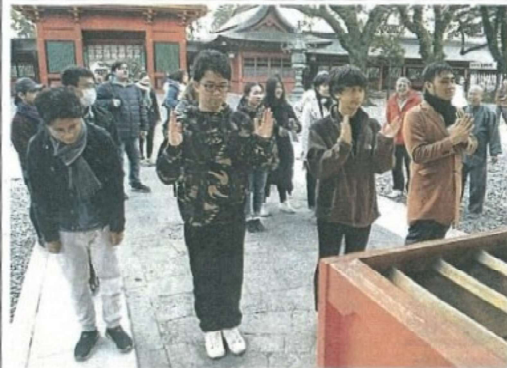
2. 恵まれない留学生に対する支援事業並びに国際交流事業等への資金支援

東京外国語大学の「留学生支援の会」が行う事業の一つで、沼津市にて行われた「ふじのくに留学生ツアー」に対して、諸経費のうちバス代の一部を支援しました。 (2019年2月 100,432円)



(17) 地域 東 東

浅間大社など巡り富士山文化を体感 富士宮で留学生 東京外国語大の外国人留学生が参加するふじのくに留学生ツアーの一行が23日、富士宮市を訪問した。世界遺産富士山構成資産・富士山本宮浅間大社や県富士山世界遺産センターを巡り、日本の文化に理解を深めた。ツアーは22〜24日に県東部で催し、ふじのくに留学生支援の会



参拝する留学生たち
＝富士宮市の富士山本宮浅間大社

（松本宗柏代表）が主国、ロシアなど各国の「富士山」の23日は、富士宮市内で開かれた富士山に向かつて歩くイベントなどを催した。構成資産の白系ノ滝も見学した。富士山本宮浅間大社では境内を巡り、参拝の仕方を学んだ。参加者の一人、ラオス出身のカムラ・ペインタクンさん（25）は「自国では日本と見え富士山と桜。富士山を間近に見られたのが良かった」と話した。

静岡新聞2019年2月25日記事

<2019年度事業計画>

2019年度の事業計画として以下の事業（約300万円）を予定・検討しています。

- 1. 安全・健康を確保できる生活環境づくりの支援事業**
農業・漁業で自立していくための職業訓練に必要な設備・道具類の購入
(海外 2019年度上期 約100万円)
- 2. 教育・職業訓練を受けられる施設及び設備、備品などの整備事業**
学校教育の運営に欠かせない机・イス・黒板などの購入
(海外 2019年度下期 約150万円)
- 3. 育英資金の交付事業**
仙台ラ・サール・ホームの大学進学希望者への育英資金
(日本 2019年度下期 約40万円)
- 4. 留学生への国際交流事業などへの支援事業**
留学生を対象とした交流事業の諸経費の一部を支援
(日本 2019年度下期 約10万円)



<2018年度事業収支報告> (2018年4月1日～2019年3月31日)

令和元年5月23日午後6時30分より港区新橋の航空会館9階会議室において、通常総会が開催されました。正会員9名と役員6名が出席して、以下の活動計算書を含む平成30年度の事業報告及び収支決算【第1号議案】が審議され承認されました。引き続き平成31(令和元)年度の事業計画及び収支予算【第2号議案】が審議され承認されました。

活動計算書(要約) (単位:千円)

科 目	金 額
I 経常収益	
受取寄付金	3,490
受取利息	1
経常収益合計	(3,491)
II 経常費用	
人件費	0
支援事業費	3,341
海外送金手数料	13
事業費計	(3,354)
人件費	0
業務代行手数料	254
通信費	59
自動引落手数料	57
その他経費	43
管理費計	(413)
経常費用合計	(3,767)
III 当期正味財産増減額	△ 276
IV 前期繰越正味財産額	21,526
V 次期繰越正味財産額	21,250

- ・2018年度に皆様からいただいた寄付金の総額は3,490千円で、前年度に比べ514千円の増額となりました。
- ・生前贈与によるもの、退職金、ゴルフコンペ時の余剰金など原資もさまざまでした。
- ・寄付いただいた皆様は、174名で前年度に比べ5名の減少にとどまりました。
- ・また、専用の「払込取扱票」を使った寄付が68件(前年度30件)あり、利用の定着が進んだものと思われます。
- ・支援寄付先は海外2件、国内1件で、受取寄付金額の約96%となりました。
- ・寄付内容を定款の事業種類別でみると、「世界の恵まれない青少年が、教育・職業訓練を受けられる施設及びその設備、備品などの整備事業」に2件、「海外からの恵まれない留学生への支援事業並びに国際交流事業等への資金支援事業」に1件となっております。
- ・次期繰越正味財産額は全額、銀行預金であります。

(理事・事務局 宇野哲人)

事務局からのお知らせ

- ・SCOLAとともに、ゆうちょ銀行の「払込取扱票」を同封いたしましたのでご活用ください。払込金額によって当方が負担する手数料は変動しますが、前年度は1,000円当たり平均15.4円となっておりますので、大いにご活用ください。
- ・年末調整時に「寄付金受領証明書」をお送りしていますが、住所変更が発生した場合には、メールまたは電話にて当基金事務局までご連絡くださるようお願いいたします。

(理事・事務局 宇野哲人)

SCOLA第5号をお届けします。感想、ご意見、ご希望などお寄せいただければ幸いです。

編集・印刷：事務局 紺野晃則 E-mail: scola_japan@yahoo.co.jp